

2022年度 関西学院大学 海外客員教員(招聘A)成果報告書

(*本報告書は本学ウェブサイト等で公開されます)

(適宜行追加可)

受入担当 教員	所属・職	経営戦略研究科・教授
	氏名	石原 俊彦
海外客員 教員	所属・職	経営戦略研究科・招聘A教授
	氏名	Martin Jones
招聘目的	① . 授業担当及び研究 2. 共同研究 3. 特別枠 (いずれかに○)	
招聘期間	2022年8月1日～8月15日	
成果報告 以下の内容を記載して 下さい。	<p>(1) 授業科目名 先端マネジメント特殊研究(財務会計): 授業の副題として「地方公会計と財務管理」が提示されて、英国を中心とした地方自治体の公会計を、財務管理の視点で解説し、受講生との討議を多く取り込んで実施された。</p> <p>(2) 授業担当の成果 本講義の正規履修者は20名で、博士課程後期課程の講義としては、極めて受講生の多い、それゆえに、授業成果の波及性の高いものとなった。講義内容は、Financial Reporting、Financial Resilience、Performance Management、Accountability and Audit を中心とする内容で、受講生の多くがそれぞれの博士論文を作成する上での多くの知的な刺激を受けたと感想を述べている。講義はすべて英語で行われた。受講生とJones教授との討議もすべて英語で行われた。受講生は全員今後日本語で博士論文を執筆予定の後期課程生ではあるが、こうした英語による意思疎通の機会を設けたことで、研究活動の国際化がもたらす便益について、受講生が直接に理解できる機会を提供できたと考えられる。</p> <p>(3) 研究の内容 Carmela Barbera, Martin Jones, Sanja Korac, Iris Saliterer, Ileana Steccolini, Governmental financial resilience under austerity in Austria, England and Italy: How do local governments cope with financial shocks?, <i>Public Administration</i>. 2017;95: 670-697. の内容を精査して、オーストラリア、イングランド、イタリアの地方自治体における財政緊縮下の財務的な回復可能性の議論を研究した。</p> <p>(4) 研究の成果 (3)の三か国比較に、日本の地方自治体が直面する緊縮財政の現状を追加することによってより有意義な国際比較が可能になるという共通の認識のもと、共同研究に参加した院生・研究員・それらのOBOG教員と石原で、わが国自治体の緊縮財政の状況を概観できる英語論文を執筆し、Jones教授のネイティブチェックを受け、英語の査読ジャーナルにJones教授との共著として投稿する方向で、現在、研究成果のアウトプットを企図している。</p>	
1. 授業担当及び研究		
(1) 授業科目名		
(2) 授業担当の成果		
(3) 研究の内容		
(4) 研究の成果		
2. 共同研究		
(1) 共同研究の内容		
(2) 共同研究の成果		
3. 特別枠		
(1) 活動内容		
(2) 成果の成果		